

# 青森県におけるナラ枯れ被害について

## ナラ枯れとは？

「ブナ科樹木萎凋病（ナラ枯れ）」は「カシノナガキクイムシ（カシナガ）」が媒介する「*Raffaelea quercivora*（ナラ菌）」によって引き起こされる樹木の病気です。シイ・カシ・ナラ類で被害がみられ、樹木体内にナラ菌が蔓延すると感染木は枯死します。東北地方では、主にミズナラ・コナラ・カシワ・クリで枯死が確認されています。



ミズナラ被害木（上：樹冠・下：排出されたフラス）



カシノナガキクイムシの穿入孔

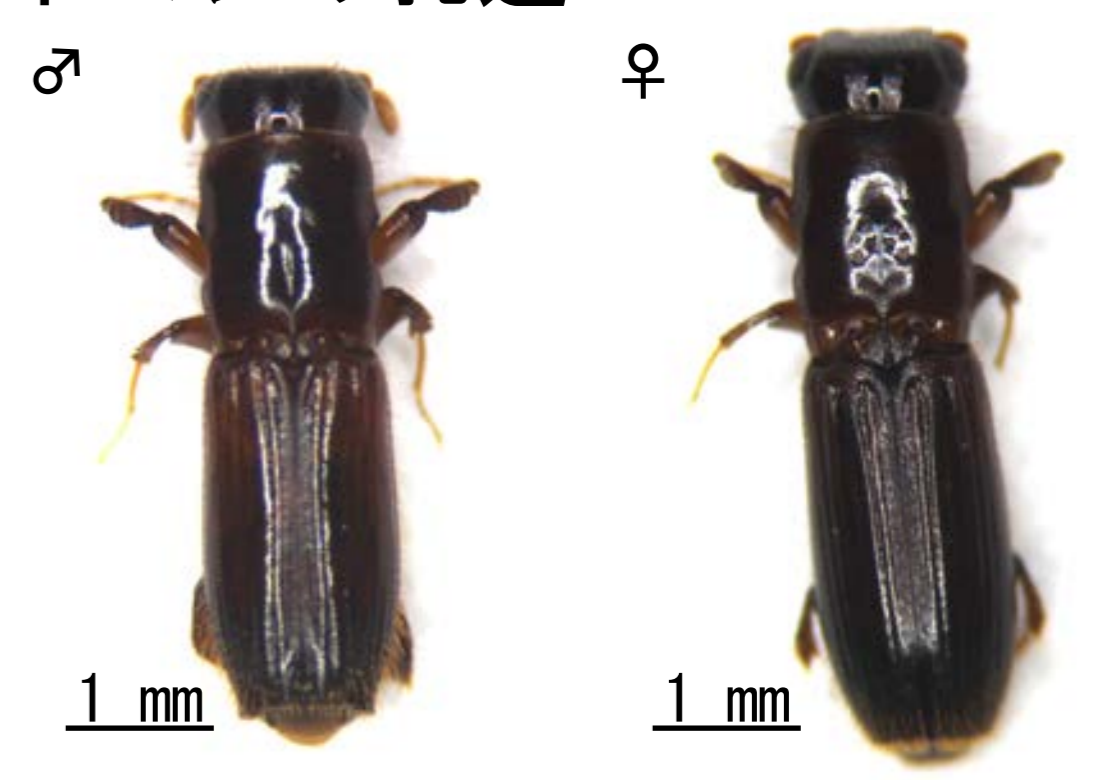
穿入部位を割材



カシノナガキクイムシの孔道



カシノナガキクイムシ幼虫



カシノナガキクイムシ成虫

## ナラ枯れ発生経緯（2010年まで）

2000年前後からナラ枯れによる激害地が東北地方でもみられるようになり、東北地方を北上しつつきました。そして、2010年12月に青森県西津軽郡深浦町大間越地区で初めてナラ枯れ2本が確認されました。この被害木は直ちに伐倒くん蒸しました。



青森県初の被害木（ミズナラ）



伐倒くん蒸処理

## ナラ枯れ発生経緯（2010年以降）

林業研究所では、2010年から衝突板トラップによるモニタリングを行っています。2015年までカシナガはほとんど捕獲されず、ナラ枯れも発生しませんでした。ところが、2016年7～9月にカシナガ67個体が捕獲されたため、周辺の探索を行ったところ、民有林で23本の被害木が見つかりました。また、同じ時期に国有林でも被害木62本が発見されています。その後、被害が拡大し、2017年は2,031本、2018年は2,409本、2019年は13,817本、2020年は42,474本となりました。また、2020年は初めて深浦町以外でもナラ枯れが発生しました。

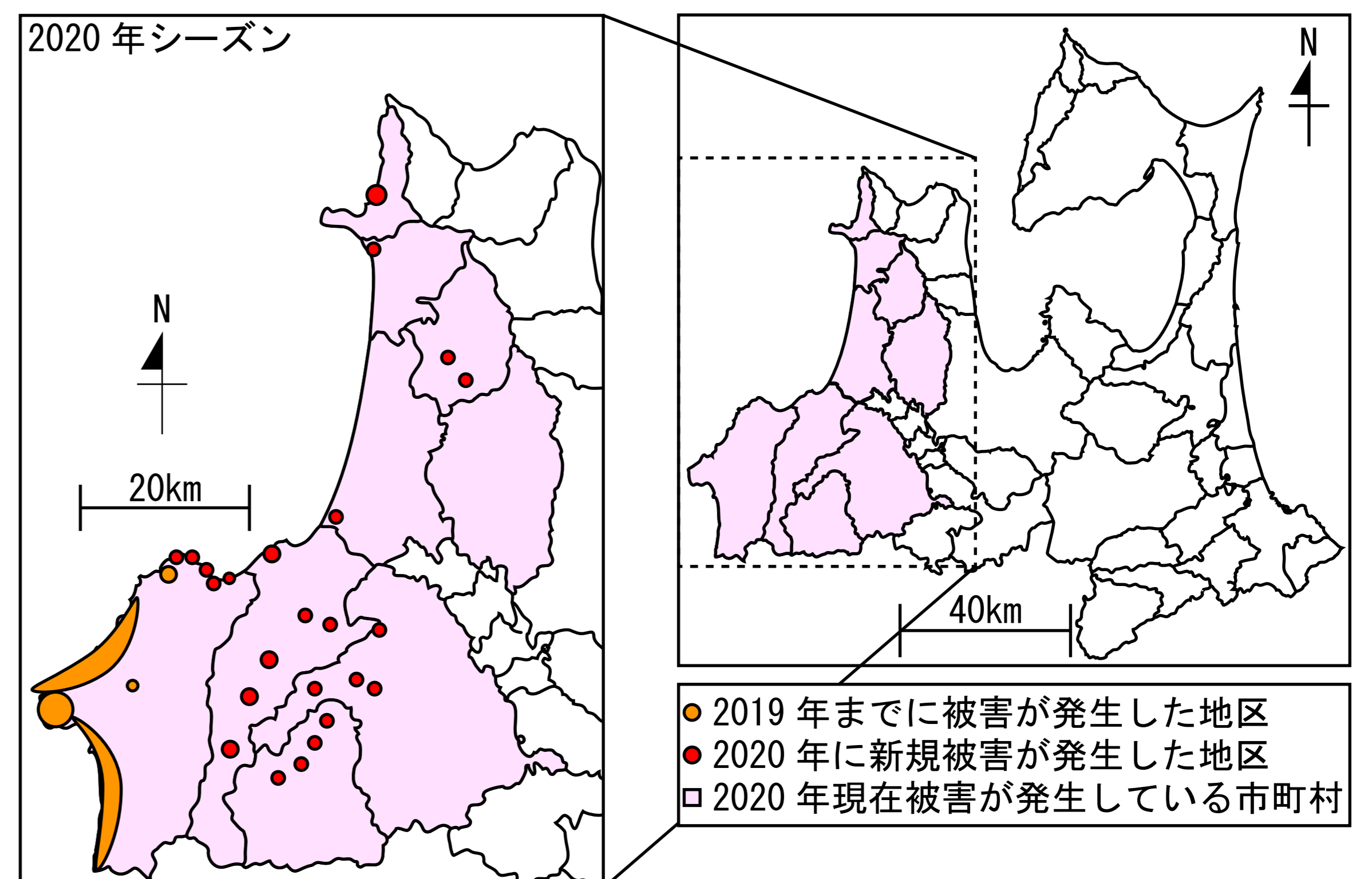


ナラ枯れのモニタリングと探索

左上：衝突板トラップ

右上：ナラ枯れ被害木（ヘリ探査）

右下：ナラ枯れ被害木（道路際の被害木）



ナラ枯れ被害の分布